

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	選択独語第一		
英文授業科目名	Elementary German (Elective) I		
開講年度	2004年度	開講年次	1年次
開講学期	1学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	1
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化応用科目 I I		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	湯川 敬弘		
居室	東1-607		

公開E-Mail	授業関連Webページ
t-yukawa@bunka.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】
<p>(a) 主題：親類関係にある英語に比べて、ドイツ語はこの語族の本来の特徴である動詞の人称変化、名詞の格変化などの文法の形式性をしっかりと保存し、意味連関で意味を捉える日本語と対極的な言語である。その点でドイツ語の学習は、英語を学ぶだけでは気づくことのない印欧語の形式的文法思考という日本人にとっての異質の思考を身につける。</p> <p>(b) 達成目標：文の諸成分を解析し、構造を理解し、その後始めて文の意味を理解するという英語学習では意識することが少なかった文法的思考を身につけることができる。それにより日本語、日本文化との思考の異質性を理解できる基礎ができる。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
なし これまで習ってきた英語の文法用語が基本的に頭に入っていること。

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
なし

【教科書等】
教科書：『ドイツ語を読む文法』（湯川敬弘 第三書房）

【授業内容とその進め方】

(a) 授業内容

ドイツ語はむつかしいといわれるが、それはドイツ語が日本語の世界に引き込んで理解しようとするからです。ドイツ語にはドイツ語の理解の仕方があるということを理解できればこの授業の目的の大半は達せられたと言ってよいのです。この授業では、不定詞の説明からスタートし、不定詞句、動詞の位置と文の種類との関係を、英文法との比較を通じて理解してゆく。それによって、印欧語の文法特徴の持つ意味と文章の解析、意味理解との関係を理解します。

(b) 授業の進め方：

月曜日の授業で習ったことについての質問を受けて、その復習をした上で、教科書に従って講義する。授業中はほぼ全員何らかの形であたるのが私の授業です。発音の正確さを重視するので、徹底的に訓練する。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a) 評価方法：

小試験・期末試験および演習・宿題の結果を、次のように総合評価する。

成績評価	宿題	20%
	小試験	30%
	期末試験	50%

(b) 評価基準：

以下の到達レベルをもって最低達成基準とする。

人称変化・格変化の意味を完全に理解していること。発音が正しく出来ること。

出席が80%をこえていること。

【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じるが、メールで事前にアポイントを取ること。

【学生へのメッセージ】

大学での授業は自分の問題を見つけるため、自分で考える能力を着けるためにあります。単位を取るためにあるものではありません。恥ずかしがらずに、どんなことでも質問すること。

【その他】

ドイツ語が難しいと言われるのは、上にも書いたように、文章を形式的に理解できるように作られた言語であるということを理解しないで、日本語のように意味連関で理解しようとするからです。その点を一年間で理解できれば、諸君は西洋的文化の日本文化との異質性を意識できる基本ができます。真の国際性とはそうしてこそ身に着くものです。